

(1) 指定種 「国際理解教育推進校」

(2) 推進テーマ

	豊かなコミュニケーション能力を身につけた子どもの育成 ～ 国際理解教育の推進～
願 う 子 ど も の 姿	<p>本校は、素直で明るい子が多い。反面、自分の思いや考えを豊かに表現する力に弱いところがある。しかし、これまでの英語活動の研究成果から、機会や場所を与えて、やり方が分かれば、仲間や教師と生き生きと楽しくコミュニケーションすることのできる力が育ってきたと言える。一方、小規模校のため人間関係が固定しがちであるとともに、社会的な視野が狭く、相手を受け入れること等の体験に乏しい課題も残る。</p> <p>このことを踏まえ、これからの国際社会を生きていくためには、次の4点に重点をおき、資質や能力を育てることが重要であると考えます。</p> <p>①コミュニケーション能力・・・聞く、話す、話し合う、豊かに表現する力 ②人権尊重(相互理解)・・・相手の立場や気持ちに共感し、受容できる力 ③異文化理解・・・英語や異文化にふれ、他国の文化を理解する力 ④自国文化理解・・・日本文化や地域の人々にふれ、よさを感じる力</p>

(3) 5カ年計画の見通し

五 カ 年 計 画	平成18年度	国際理解教育の推進 (I) ・英語活動・国際交流活動の在り方
	平成19年度	国際理解教育の推進 (II) ・国際交流活動と関連を図った英語活動の在り方 ・全教育活動におけるコミュニケーション能力の育成
	平成20年度	国際理解教育の推進 (III) ・主体的にコミュニケーションを図ることができる英語活動の在り方 ・全教育活動におけるコミュニケーション能力の育成
	平成21年度	国際理解教育の推進 (IV) 公表会 ・主体的にコミュニケーションを図ることができる外国語活動の在り方 ・全教育活動におけるコミュニケーション能力の育成
	平成22年度	国際理解教育の推進 (V) ・主体的にコミュニケーションを図ることができる外国語活動の在り方 ・全教育活動におけるコミュニケーション能力の育成

(4) 第3年次の成果等

【平成20年度の重点】 英語活動及びゲストティーチャーを招いた英語活動のあり方

英語活動を中心に豊かなコミュニケーション能力の育成を目指した。1単位時間の中で「自発的に周りに関わりながら、相手の思いを理解し、温かく受け入れる姿」を求めて、「聞く」「話す」「仲間」のめあての達成につながる中心活動のあり方の工夫と、クラスルームイングリッシュの充実を図ってきた。また、児童が見通しと意欲をもって英語活動に取り組むことができるように、活動に目的をもたせること、スモールステップで進めることを大切にして、年間指導計画を改善してきた。その中で、ゲストティーチャーを迎えた英語活動を終末に位置づけた単元指導計画の開発もおこなってきた。

その結果、次のような成果が得られた。

- 中心活動の工夫によって、児童がめあてを意識して活動できた。また、積極的に会話ができた。
- 単元の強調した「めざす姿」は、特に児童の高まりが感じられた。
- 単元の流れを示し、見通しをもたせることで、児童が目的をもって意欲的に活動することができた。
- ゲストティーチャーとの交流の場を設定することが児童の「楽しみ」につながって、生き生きとした表情で活動ができた。また、力試しの場としてコミュニケーションの喜びを感じることもできた。
- くり返しを重視した単元指導計画や、中心活動の工夫によって、既習の英語表現を進んで使ったり、わからないことを教え仲間と関わり合う姿が増えた。

(5) 平成21年度(第4年次)の重点

国際理解教育の推進 (IV)

- ・主体的にコミュニケーションを図ることができる外国語活動のあり方
- ・全教育活動におけるコミュニケーション能力の育成

(6) 推進の具体的な方途

1, 主体的にコミュニケーションを図ることができる外国語活動の在り方

研究主題【豊かなコミュニケーション能力を身につけた子どもの育成】

「豊かなコミュニケーション能力」とは、自発的に周りと関わり合いながら、相手の思いを理解し温かく受け入れることのできる能力と捉えている。

児童の実態を見つめると、自信をもって会話をしたり、自分が知っている英語表現を意欲的に話したりする姿が多い。また、仲間やALT、ゲストティーチャーと関わる活動を楽しんでいる。しかし、そのようなコミュニケーション能力の高まりを、児童自身があまり感じていない。そのため、一人になったり、仲間の前に立ったりするとうまく話せない、英語活動で学んだコミュニケーション能力があまり普段の場に生かされていない、という課題がある。

そこで、平成21年度は、子どもたちがより意欲的に活動に取り組み、「めざす姿」を意識して活動できる中心活動のあり方を引き続き追究していくと共に、どの子どもも自分や友だちの高まりが実感できるような評価のあり方を追究していきたい。また、さらに他の教育活動との関連を図っていききたい。

◆研究内容◆

- ①子どもが主体的にコミュニケーションを図ることができる単元指導計画及び1単位時間の指導過程の改善
 - ・「聞く」「話す」「仲間」のめあてを意識しつつ、めあての達成につながる中心活動のあり方
 - ・目的をもって活動ができ、スモールステップで英語表現を身につけることができる単元指導計画のあり方
- ②子どもがコミュニケーション能力の高まりを感じられる評価の工夫
 - ・めざす姿の達成を感じることができる評価のあり方
 - ・毎時間の外国語活動の評価のあり方



◆コミュニケーション能力を育む環境づくり◆

- ①教室掲示の充実・整備
 - ・「めざす姿」「クラスルームイングリッシュ」の掲示を活用する。
- ②ワールドルーム、ワールドスペースの充実・整備
 - ・外国語活動に必要な教材、カード、ボードの整備をする。
 - ・「めざす姿」「クラスルームイングリッシュ」、児童の作品などの掲示を活用する。
- ③ ALT と児童が親しめる場の設定
 - ・ワールドルームの開放、北西タイムや給食への参加等を計画する。

2, 全教育活動におけるコミュニケーション能力の育成

- (1) 教科指導における言語活動を豊かにするための指導
 - ・「聞く」「話す」「話し合う」力を重点とした段階的・系統的な指導をする。
- (2) 日常生活におけるコミュニケーション・スキルの指導
 - ・西小5運動の「あいさつ」「思いやりの言葉」と関わらせた日常的な指導をする。
- (3) 北西タイムの内容や方法の工夫・改善
 - ・ALTとの交流、異文化体験、英語本の読み聞かせ等、実践の場を設定する。
- (4) 「北西ステーション(総合的な学習)」の内容や方法の工夫・改善
 - ・6年生の国際理解の学習でALTや外国出身の方との交流活動を取り入れる。
 - ・人との関わりを重視した体験活動を取り入れる。